

胃X線検査（バリウム検査）をお受けになれる方へ

絶対的禁忌

バリウム製剤の禁忌（別紙1 参照）

- ・消化管穿孔またはその疑い
- ・消化管急性出血
- ・消化管閉塞または疑い
- ・バリウム製剤に過敏症（アレルギー）の方

妊娠中またはその可能性のある方

禁忌となりうる疾患

1. 消化管疾患

- ・腸閉塞（腸捻転）の既往；原則的に不可（ただし、主治医の許可があれば可）。

バリウム停滞、排出遅延により消化管穿孔など重篤な合併症の恐れがあります。

そのため、今回だけでなく今後もX線検診は受診できない可能性があることを説明する必要があります。

- ・便秘；要注意とし、3日間排便なければ不可。

バリウムの停滞、排出遅延により消化管穿孔など重篤な合併症の恐れがあります。3日間排便なければ当日の検診は受けられないが、その後の排便状況が改善すれば受診可能であることを説明し、理解していただきます。

2. 循環器疾患

- ・高血圧；180/110mmHg以上は不可（測定した場合の目安）。

日本高血圧学会による重症高血圧であり、合併症を誘発する恐れがあり不可。

3. 呼吸器疾患

- ・喘息；発作時は不可。頻繁に発作がある場合も不可。それ以外は主治医の許可があれば可。

誤嚥の可能性や、撮影時の息止めが困難となるため不可。症状が安定し、主治医の許可があれば、後日受診可能であることを伝えます。

- ・呼吸器疾患；在宅酸素療法の方は不可。それ以外は主治医の許可があれば可。

酸素療法中の方は、検査中の安全を確保できない可能性があり、また誤嚥すれば重篤な合併症を起こす危険があるため不可。日常生活に運動制限のある方は、検査中の安全が確保できないため注意が必要。

- ・手術の既往；1年以内に手術した方は不可。それ以外は主治医の許可があれば可。

手術により片肺となった方は、誤嚥により重篤な合併症を起こす危険があるため要注意。

4. 脳血管障害など

- ・脳血管障害 1年以内に発作があった方は不可。体位変換が困難な方、嚥下障害がある方は不可。それ以外は主治医の許可があれば可。

- ・頭部手術の既往 1年以内に発作があった方は不可。それ以外は主治医の許可があれば可。

- ・脳圧亢進でシャント中 不可。

- ・認知症など 理解困難がある場合は不可。

5. 運動障害など

- ・麻痺、疼痛など 体位変換が困難な場合は不可。
- ・手術の既往 1年以内に手術された方は不可。それ以外は体位変換可能であれば可。
- ・椎体、靭帯など治療中 1年以内に手術された方は不可。それ以外は体位変換可能で
または経過観察中 あれば可。
- ・体型、体形 体位変換が困難な場合は不可。
(体重130kg以上は撮影装置の問題から不可の場合あり)

6. 腎疾患

- ・透析中 不可。
- ・慢性腎疾患 水分制限がある方は不可。それ以外は主治医の許可があれば可。

7. 糖尿病

- ・インスリン 検査前に使用した方は不可。
- ・経口血糖降下剤 検査前に服用した方は不可。
- ・コントロール不良 原則不可。

8. その他

- ・妊娠またはその可能性 不可。
- ・誤嚥 既往がある方は不可。日頃むせやすい方は要注意。
- ・アレルギー 不可。(バリウム、発泡剤、下剤)
- ・メニエール病 原則的には不可。
- ・食事 朝食摂取された方は不可。検査中、残渣が多い場合には中止、再検査となる可能性あり。
- ・喫煙 不可となる場合あり。

検査について

1. 食事

検査前日の夜10時以降は禁食してください。

飲水は当日検査開始の2時間前までにコップ2杯程度の水、白湯の摂取は構いません。

摂食状況により、検査できない場合があります。

2. 内服薬

高血圧、心臓病の方は、検査開始の2時間前までに、コップ2杯程度の水、白湯で内服薬を飲んでください。

糖尿病の方は、検査当日の朝の内服薬およびインスリンを使用しないでください。それ以外の内服薬に関しては、主治医に確認の上、検査前に内服するか、または検査後に内服するかの指示を受けてください。

3. 体型

アクセサリや時計は検査時、外していただきます。

体重130Kg以上の方は、撮影装置の安全構造上、撮影できない場合があります。

4. 検査方法

発泡剤とバリウムを飲みます。胃の粘膜によくバリウムを付着させるため、撮影台の上で回転したり、上下逆の体位になることがあります。そのため、下記に該当する方は、安全に検査することが困難であることが予想されるため、当日検査を受けられません。

- バリウムのコップをご自分で持って飲むことができない方
- 自力で立ってられない、または撮影台の手すりを掴むことが困難な方
- 技師の指示に従って動くことが困難な方

5. 既往歴

下記に示すような既往歴のある方は、原則安全を考慮して、当日検査を受けられません。

- 過去1年以内に腹部の手術をされた方
- 過去1年以内に整形外科の手術をされた方
- 過去1年以内に心筋梗塞や脳梗塞等の病気をされた方
- 透析や心臓疾患のため、水分制限のある方
- 認知症や精神疾患があり、指示通りに動くことができない方
- 腸捻転、腸閉塞の既往がある方
- 当日まで3日間排便のない方
- 当日の体調に不安がある方や問診により同日の検査はやめた方が良いと判断された方

6. 検診後のご注意（下剤服用方法）

検査のために服用した造影剤(バリウム)により、便秘を生じる場合があります。

普段より水を多めにお取りになり、便秘にご注意ください。

また、造影剤（バリウム）のスムーズな排泄のため、下剤をお渡ししておりますので、服用してください。

通常の便に戻るまで、アルコールは禁止となります。

注意事項

- 夕方までに排便のない場合、夕食後に2錠服用してください。
- 翌朝になっても排便のない場合は、更に朝食後に2錠服用し、様子を見てください。
午後になっても排便のない場合、当センタにご連絡ください。浣腸の用意があります。
- 当センタが休日または夜間の場合は、できるだけお早めに最寄りの医療機関を受診して下さい。

放置しますと最悪の場合は腸閉塞を起こす恐れがありますので、ご注意ください。

※自宅でも浣腸を行うことはできます。市販されているイチジク浣腸等をご利用ください。

浣腸を行っても排便のない場合は医療機関の受診をお勧めいたします。

(株) 日立製作所 日立健康管理センタ

電話 0120-38-6399 (平日:10時~16時30分)

バリウム検査における安全管理

【服用する製剤添付文書での禁忌】

●バリウム

- (1) 消化管の穿孔又はその疑いのある患者
〔消化管外（腹腔内等）に漏れることにより、バリウム腹膜炎等の重篤な症状を引き起こすおそれがある。〕
- (2) 消化管に急性出血のある患者
〔出血部位に穿孔を生ずるおそれがある。また、粘膜損傷部等より硫酸バリウムが血管内に侵入するおそれがある。〕
- (3) 消化管の閉塞又はその疑いのある患者
〔穿孔を生ずるおそれがある。〕
- (4) 全身衰弱の強い患者
- (5) 硫酸バリウム製剤に対し、過敏症の既往歴のある患者

●発泡剤

- (1) 消化管の穿孔又はその疑いのある患者
〔本剤投与により消化管が膨らみ、穿孔部位を伸展させ腹痛等の症状を悪化させるおそれがある。〕
- (2) 消化管に急性出血のある患者
〔本剤投与により消化管が膨らみ、出血部位を伸展させる。〕

●緩下剤

- (1) 急性腹症が疑われる患者
〔腸管蠕動運動の亢進により、症状が増悪するおそれがある。〕
- (2) 本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

【被曝】

妊娠および可能性のある者

【参考資料】

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会
胃エックス線検診安全基準作成委員会 より抜粋